

ぶら^ら探訪

その拾参

続・福山城の痕跡を歩く

講師 田中伸治



絵葉書より

平成25(2013)年7月6日

東側から見たかつての福山城



絵葉書より

現在の福山駅北口方向から撮影されたもの。

噴水公園がかつての内堀であつた様子がよくわかる。



横浜開港資料館所蔵

建ち並んでいた櫓や屋敷が取り壊され、風景が変貌しているのがわかる。

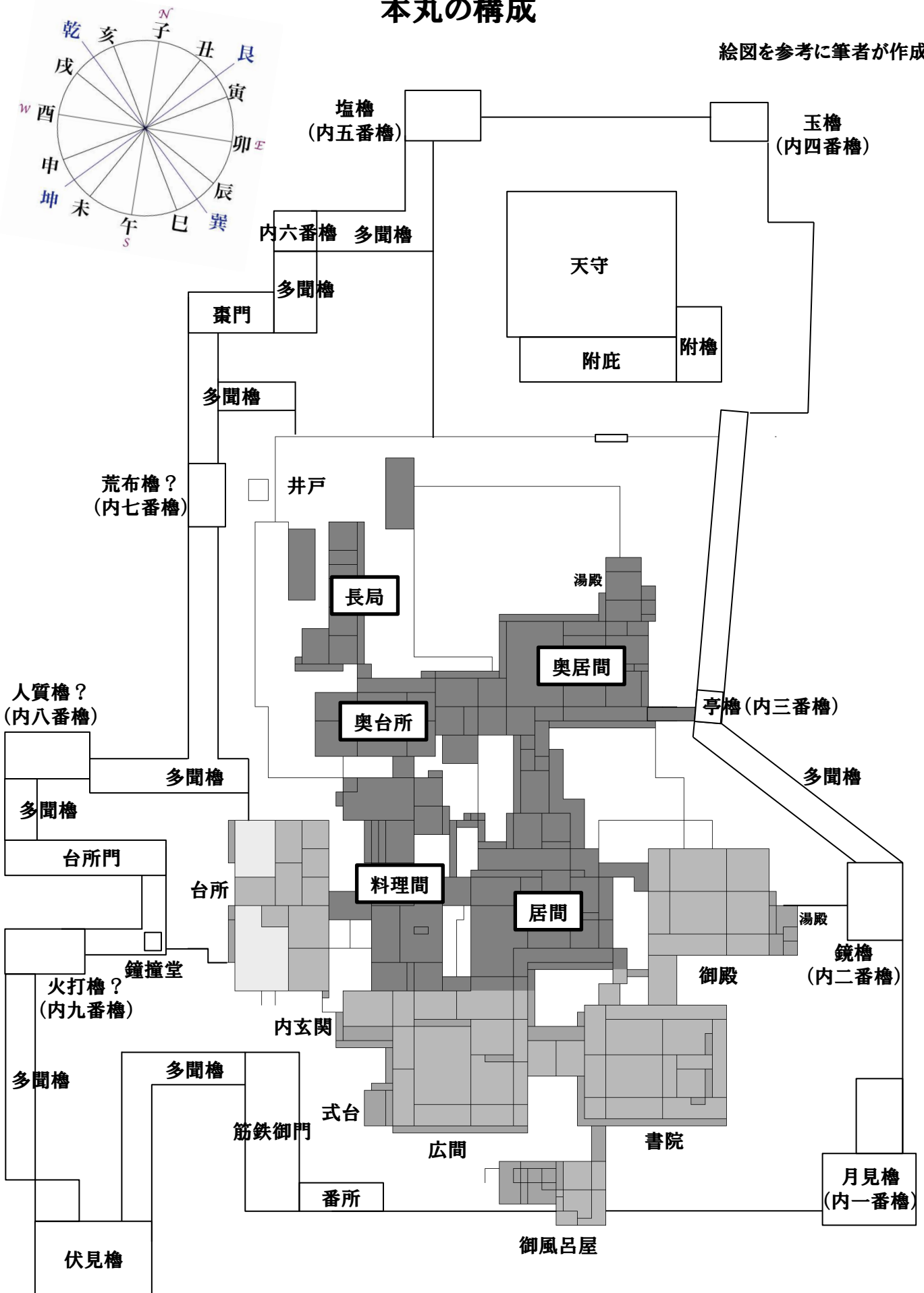


福山城誌より

東坂三階櫓や鹿角菜櫓の姿を確認できる唯一の写真

本丸の構成

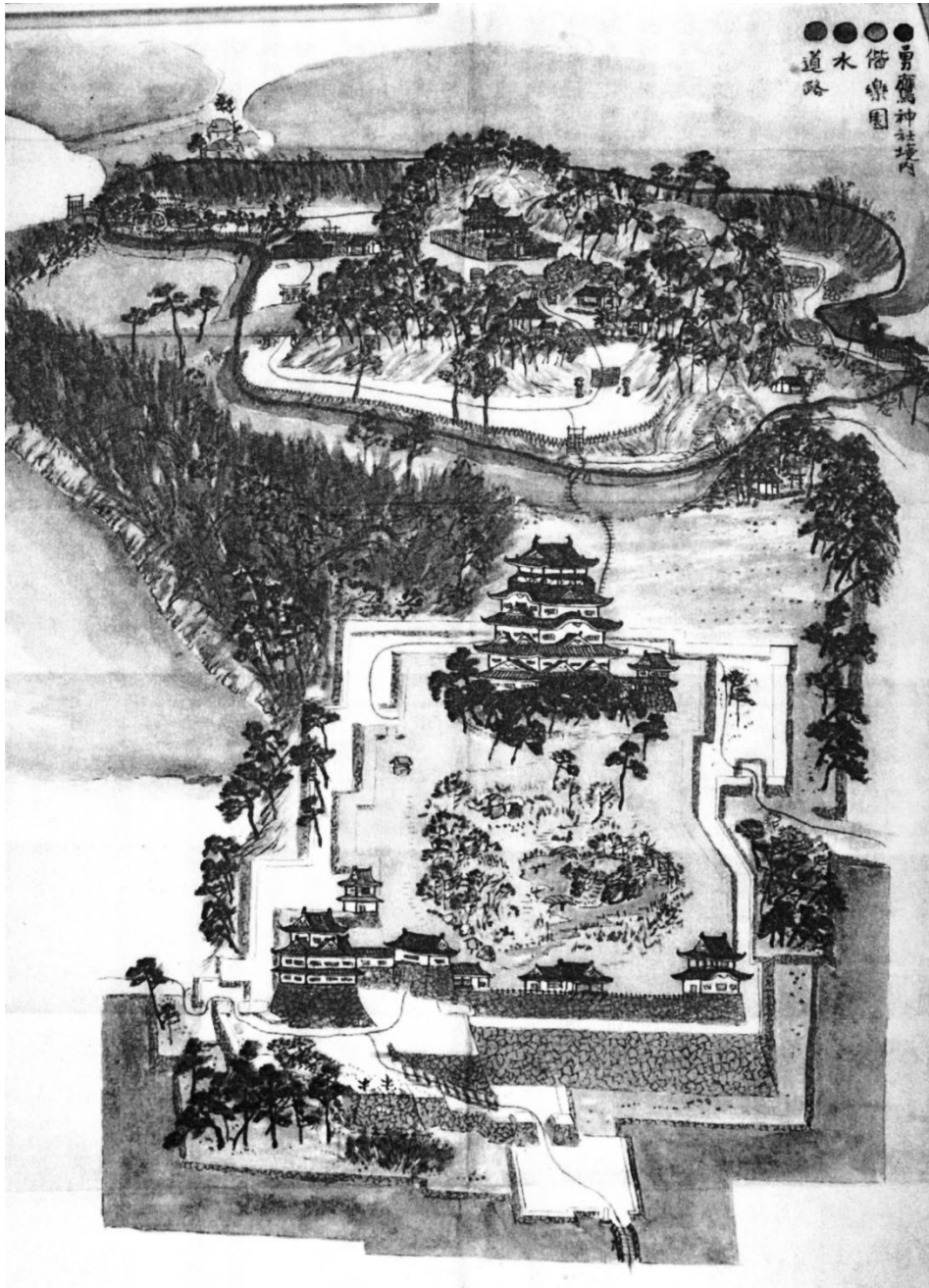
絵図を参考に筆者が作成



水野時代の櫓の名称には不明なものがある。

阿部時代には、本丸の櫓を「内」として、伏見櫓を除外し月見櫓から火打櫓まで番号で名称が振られていた。

明治初期の福山城の様子



明治8年(1875年)の福山公園(偕楽園)設置直後を描いたと思われる絵図。

「アーカイブスふくやま 第4号」より

昭和初期の本丸の様子

「舊福山城本丸址を以て公園となし、福山公園と稱す。標高二十一米二 廣袤四千六十三坪九二〔一町三段五畝一三步九二〕東西兩坂路の外に南方〔正面〕北方〔裏道〕より登る道がある。本丸址以外は民有地であるから人家あり、荒蕪地あり、櫻園あり、テニスコートあり、麦畑あり、雑然紛然たり。公園内北側に國寶天守閣南面して屹立し、毎日登閣を許す〔登閣料金十銭〕南側に國寶御湯殿(今清風樓と稱する料亭)あり、春季木ノ芽田樂を名物とす。國寶伏見三層櫓、同筋鐵御門は西端に、貸席葦陽館は南端〔月見櫓址〕にあり、その他園内に義勇奉公碑(東郷元帥書)、黄金水、官祭福山招魂社、鐘樓、阿部伊勢守正弘公銅像、忠魂碑(山縣元帥書)御野立所〔遙拝所〕函館出征記念碑、江木鰐水碑、寺地舟里碑、茶店、猿小屋、孔雀小屋、小鳥小屋、鳩小屋、泉水〔噴水〕四阿、國寶標石四基(小山五千石翁寄附)等あり。天守閣前には老松矗々天を擧ぐ、泉水には梅、櫻、海棠、藤の棚等の觀賞樹を植込み、周廻の壘上(渡櫓跡)にはベンチを据えて眺望に便す。福山市街は一眸に聚る。」

「福山城誌」(昭和11年)より

征露記念碑(忠魂碑)



絵葉書より

焼失前の天守入口



天守入口付近。「国寶 福山城天守閣」の石柱がある。
入口部分は再建天守と比べて意匠が大きく異なるのがわかる。

「福山城誌」より

阿部正弘像



旧「阿部正弘像」

絵葉書より

大正11年(1922年)に阿部正弘を顕彰するため福山市民有志により建立される。建設費は5万円で全額寄付により賄われた。像は高さ14尺(約4.24m)、原型は新進気鋭の彫刻家「武石弘三郎」により製作される。台座は関西建築界の父と言われる福山出身の建築家「武田五一」により設計されたもの。太平洋戦争時の戦時供出で像と銘板が撤去された。



現「阿部正弘像」

昭和53年(1978年)に市制施行60周年を記念して福山市が主体となり建立される。建設費は3000万円(水野勝成像も含む)で大半が寄付により賄われた。像は高さ約2.3m、原型は福山市新市町出身の彫刻家「陶山定人」により製作される。台座は地元建設業者による施工。

国旗掲揚塔



昭和13年の写真より

「郷軍福山市聯合分會海軍班が日露海戦三十周年記念事業として軍艦三笠のマストになぞらへた国旗掲揚の鐵塔は既報の如く福山城の東南隅阿部公銅像前に建設中であつたが、二十一日竣工し二十七日海軍記念日當日午前九時から掲揚式を舉行することになつた右鐵塔は總工費千五百圓高さ百尺で國寶天主閣と共に大空へ聳え立つてゐる」

「青むしろ6月号」(昭和10年)より

焼失前の御湯殿(清風楼)



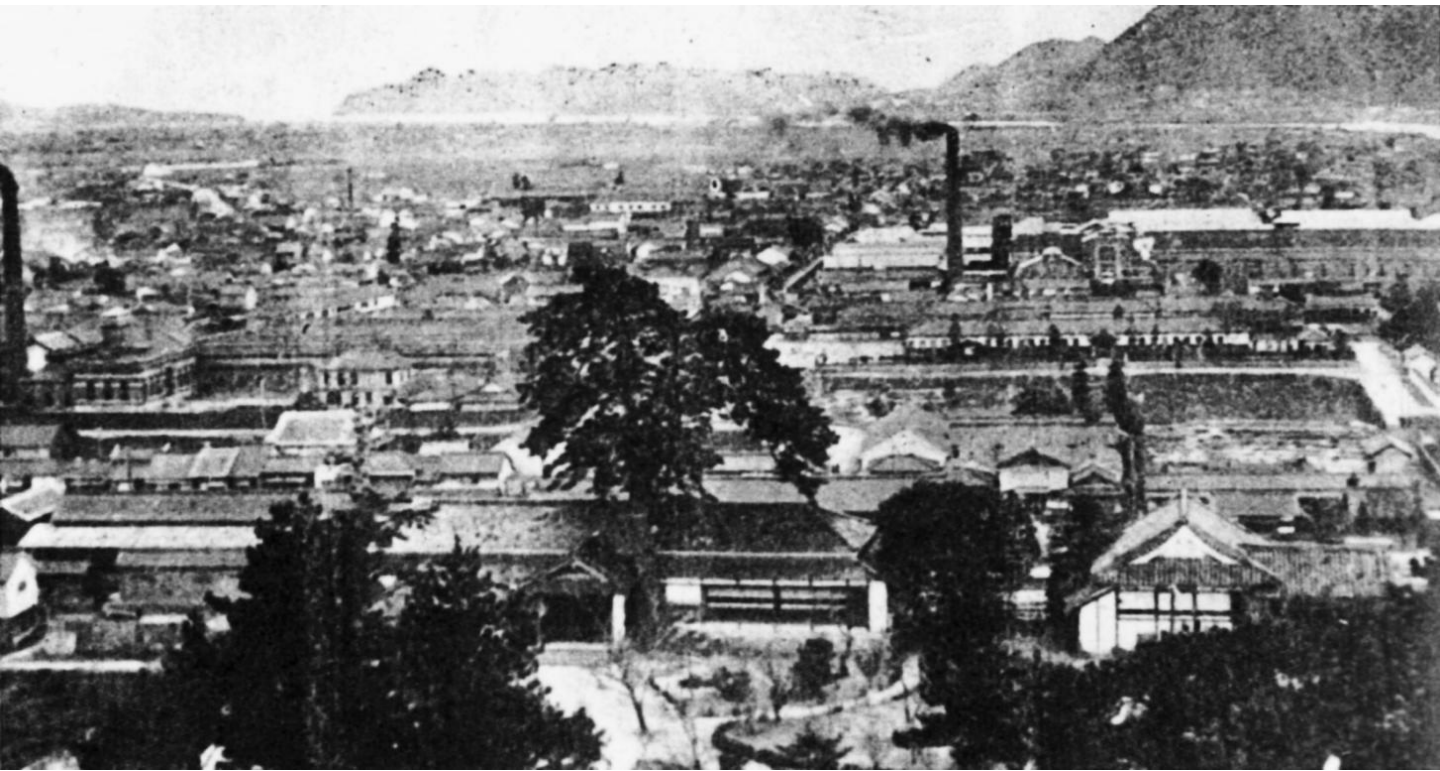
「戦災等による焼失文化財 建造物篇」より

「御物見の段[三間半四間半]と御風呂[三間半三間半]に分る。伏見拝領。床、書院、天井等桃山時代の建築として國寶に列す、御物見の段は南面し、座敷を上中下の三段に分つ、上段の間は藩主が湯上りに涼をとり、城下を眺望せしところ、勾欄を廻らし、石畳上に突出す。中段は近臣の伺候する所、下山は忍従者の控へる所である。風呂は蒸風呂であつたらしい、元は湯殿(皇帝お間)へ廊下つゞきであつた。

明治七八年頃、士族榎村某此の湯殿を改造して料理業を営み、清風樓と名附く、後柄澤及び八木兩氏交々經營に當り、現今の片山氏に至る。」

「福山城誌」(昭和11年)より

葦陽館



天守より見る葦陽館

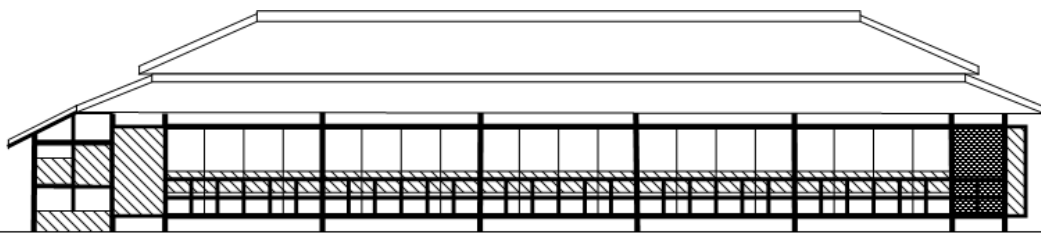
「福山戦災復興誌」より

明治二十一年三月栗原喜助等發起人となり、公園繁榮策として月見櫓址三十坪を縣より借用して貸席葦陽館を建設した。株主二百六十三人、明治三十六年増築、後ち建物を講演保存會へ寄付し、今日に至る。

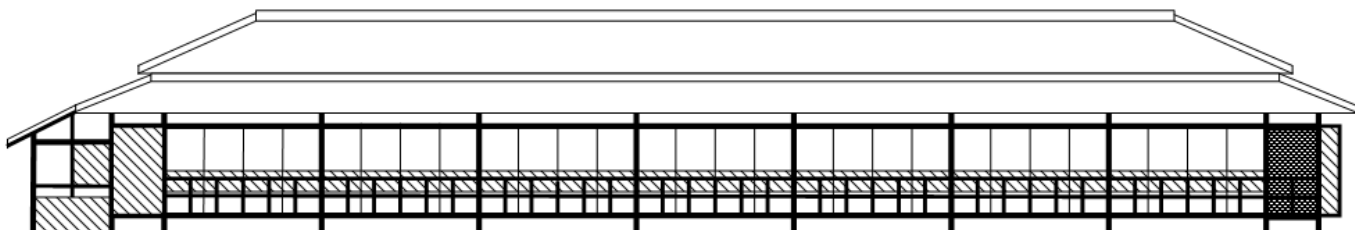
「福山城誌」より

増築前

葦陽館平面図(南側)



増築後



古写真を参考に筆者が作成

「備陽六郡志」での福山城の記述

一、御屋形 勝成公御一代本丸に被成御座、勝俊公御代二丸に御屋形を御建御移、夫より松平忠雅公、当 御代迄、二代（丸か）に被成御座候。忠雅公御参勤之節ハ、御本丸より御免駕被成、御帰城之節も先御本丸へ御入、それより二丸之御屋形へ御移被成候由。

虎之間 御玄関なり、敷台の上に牡丹三獅子の彫物有、尤極彩色なり、九間半拾間半。

内玄関 四間三五間 御玄関より書院へ取付の溜を仙人の間と云。

書院 八間、拾壹間 皇帝の間と云。

御殿 八間、八間半 箱棟に葵の御紋付、御殿の内惣張付墨絵の山水、合天井秋野の七種、いつれも狩野永徳筆なり。是は伏見より御拝領なり。

御居間 六間、拾貳間 大津之景を描。右之御間惣張、障子の腰、杉戸、唐紙、不残極彩色なり。

料理間 五間、拾貳間

御台所 七間、拾貳間 勝成公、相撲を好せられ、此所の庭にて御覽被成候由。高サ壹間壹間半四方ほどの高欄付たる箋（棧か）敷有。

奥御居間七間拾壹間 同御台所四間八間 御居長局 享保十五戌年崩、江戸へ被遣。

下台所六間九間戌年より以前に被崩。

御風呂屋 伏見より御拝領、鉄門番所之上に有。

一、鐘撞堂 鐘差渡式尺五寸高サ四尺五寸龍頭マテ 太鼓差渡三尺長サ三尺五寸

一、櫓

三階櫓 伏見より御拝領、筋鉄門之前に有、城付武具入。

火灯櫓 右同断 時之鐘之後に有。

月見櫓 右同断 東方御殿之後に有。

右いつれも戸柱などに松の丸と書付有。

櫓形櫓 神辺より来 柏木番所之前に有。弓鉄砲其外武具入

神辺一番櫓 右同断 右番所之後、西南之角に有、寺社方帳面入。

同二番 同三番 同四番 右何れも西之方二有。

人質櫓 神辺より来 乾之方に有。

荒布櫓 右同断 坤之方に有。

鹿角菜櫓 右同断 東坂口門之上に有。

玉櫓 右同断 天守之後、東之角に有。

塩櫓 右同断 天守之後、西之角に有。

亭櫓 東之方二有。

天守付櫓

右之外渡り櫓有。絵図にて可考。（絵図は本書にない）

一、門

鉄門 此門之上、武具入 東方武者走へ出小門升形之内二有

西坂口門 埋門有、西方武者走へ出ル忍口なり。

筋鉄門 東方帶曲輪へ出、小門有。

棗門

馬出門 チヤノコ門とも云。

蔵口門

東坂口門

下台門

台所門

一、清水

西坂口門之内壹ヶ所

東坂口門之内壹ヶ所

地藏之清水 此清水之外側に六地藏有常興寺繁榮之節よりの地藏也。

一、井

鉄門升形之内二ヶ所

御台所脇二ヶ所

一、番所

筋鉄門之内壹ヶ所

坂上

鉄門

馬出門之外、藪之内壹ヶ所有之、御長柄之者壹人ッ、番相勤候所、近年相止。

一、渡櫓三百八拾間、多門一軒分伏見より御拝領。

一、天守之後帶曲輪、蔵口門之外、御城米蔵有、五千石と云。

水野家の御代より壹万石御預米有五千石を浜の蔵に入、五千石ハ此蔵に被入置、依而五千石共御城米共云。然處近來御用米と可唱由被仰渡、正福公御代対州府中へ式千百石長州赤間か関江七千二百石、御廻米被仰付、其以後御預米無之故、廻場役所等も朽倒れ、御蔵も大破に及候に付、三間拾間の蔵式ヶ所、三間二式拾五間の蔵壹ヶ所、寛延三年之春被崩。三間二拾間之蔵三ヶ所、三間式拾五間の蔵一ヶ所相残。

備陽史探訪の会では、行事参加のお申込みから、過去の行事報告、研究資料の閲覧まで、様々なサービスをインターネットで提供しています。

<http://bingo-history.net>

探訪の会

検索



備陽史探訪の会

【事務局】

〒720-0824 広島県福山市多治米町5-19-8

TEL 084-953-6157

E-mail info@bingo-history.net

公式サイト

<http://bingo-history.net>